

本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① この由、つぶさに帝に奏す。
- ② 宮々の御こと、中宮に啓す。
- ③ 大納言、歌を詠みて帝に奏し給ふ。
- ④ かかること侍りと、東宮に啓す。
- ⑤ 使ひ、事の由を帝に奏しけり。
- ⑥ 女房、この趣を中宮に啓しけり。
- ⑦ 殿、事の由を大臣に申し給ふ。
- ⑧ かの歌、いまだ帝に奏せず。
- ⑨ 皇太后に、御消息を啓する人あり。
- ⑩ 楽人、笛のことを帝に奏すれば、御感あり。
- ⑪ 女御、夢のさまを中宮に啓し給ふ。
- ⑫ 関白殿、政のことを奏せんとて、内裏に参り給ふ。

設問

1. 例文①の傍線部「奏す」は、原則として誰に「申し上げる」場合に用いる語か。
2. 例文①「この由、つぶさに帝に奏す。」を現代語訳せよ。
3. 例文②の傍線部「啓す」は、誰に「申し上げる」場合に用いる語か。あてはまる人物を二つ以上挙げよ。
4. 「奏す」「啓す」のように、敬意の向かう相手が特定の人物に固定された敬語を何と呼ぶか。
5. 問4の敬語に対して、話し手と相手との関係によって使い方の決まる、通常の敬語を何と呼ぶか。
6. 「奏す」「啓す」は、敬語の三種類（尊敬語・謙譲語・丁寧語）のうちどれか。誰を高める語かという理由とあわせて答えよ。
7. 「奏す」の活用の種類を答えよ。
8. 例文③の傍線部「奏し」は、本動詞・補助動詞のいずれか。
9. 例文③の「給ふ」について、敬語の種類、本動詞・補助動詞の別、誰への敬意かを答えよ。
10. 例文③の傍線部「奏し」は、誰から誰への敬意を表すか。
11. 例文③「大納言、歌を詠みて帝に奏し給ふ。」を、敬意がわかるように現代語訳せよ。
12. 例文④の傍線部「啓す」の敬意の対象は誰か。
13. 例文⑦の傍線部「申し」と例文①の傍線部「奏す」は、どちらも「言ふ」の謙譲語である。両者の違いを、「相手」という観点から説明せよ。
14. 例文⑧の傍線部「奏せ」の活用形を答えよ。

15. 例文⑨の傍線部「啓する」の活用形を答えよ。
16. 例文⑩の傍線部「奏すれ」の活用形を答えよ。
17. 「このこと、中宮に奏す。」という文には、敬語の使い方に誤りがある。誤りを指摘し、正しい形に直せ。
18. 次のうち、「啓す」を用いるのが適切な相手をすべて選べ。
- ア 帝 イ 中宮 ウ 東宮 エ 摂政 オ 大納言
19. 例文⑪「啓し給ふ」には、二方面への敬語が用いられている。「啓し」「給ふ」のそれぞれについて、誰への敬意かを答えよ。
20. 例文⑫の傍線部「奏せ」に付く「ん（む）」の文法的意味を答え、「奏せんとして」を現代語訳せよ。
21. 古文中に「奏す」が出てきた場合、言葉の受け手が書かれていなくても、誰に申し上げたか判断できるか。また、そのことが読解上どのように役立つか、簡潔に説明せよ。